

上御殿遺跡発掘調査現地説明会資料

平成 24 (2012) 年 11 月 23 日 (祝) / 公益財団法人滋賀県文化財保護協会

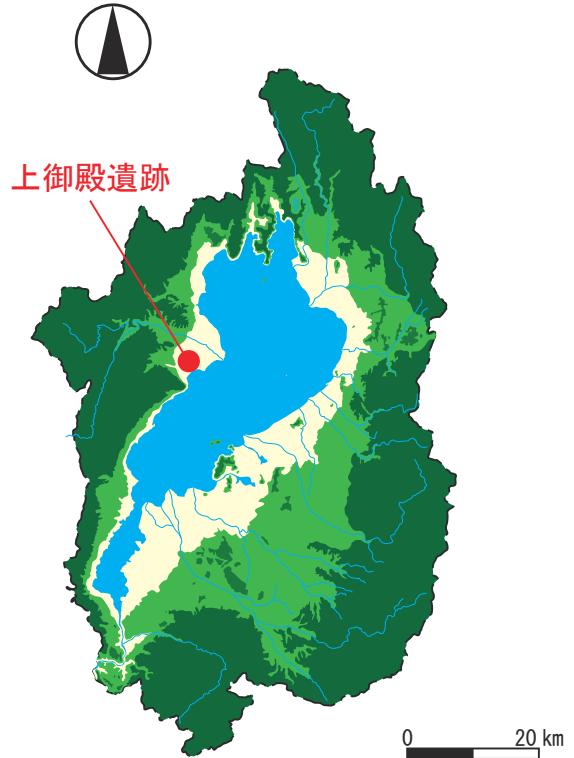


調査の概要

公益財団法人滋賀県文化財保護協会では、平成 20 年度より、高島市の天神畑遺跡(鴨地先)と上御殿遺跡(三尾里地先)の発掘調査を行っています。調査は、滋賀県教育委員会と滋賀県高島土木事務所からの依頼により鴨川広域基幹河川改修事業(青井川)に伴って行っています。

平成 24 年度の調査は、4 月から実施しており、これまでに古墳時代前期の竪穴住居、古墳時代後期の溝、奈良～平安時代初頭の居宅や倉庫群、平安時代の掘立柱建物、古墳～平安時代の川跡などを確認することができました。

なかでも、川跡の調査では、奈良～平安時代初頭の人形代や斎串、陽物形代などといった祭祀遺物が出土し、当時の生活をうかがうことができる貴重な成果が得られました。



年代	時代区分	日本の主な出来事	天神畑・上御殿遺跡の主な調査成果
B.C.500年	縄文		縄文時代中期後半(4000年前) 土器棺墓
	弥生	約 2500 年前 稲作始まる。 248 年頃 卑弥呼死す。	弥生時代終末(3世紀前半) 方形周溝墓
300年	古墳	前方後円墳が各地にさかんに 築造される。鴨稲荷山古墳(500年)	古墳時代前期(4世紀後半) 竪穴住居 古墳時代前期～中期前半(4～5世紀前半) 木棺墓
600年		6C初 継体大王 即位 604 年 憲法十七条の制定。	古墳時代後期(6世紀後半)の溝
700年	飛鳥	645 年 大化の改新(乙巳の変)。 667 年 近江大津宮へ遷都。	奈良～平安時代初頭(8世紀～9世紀前半) 居宅・倉庫群 祭祀遺物
800年	奈良	710 年 平城京へ遷都。 742 年 紫香楽に離宮を造る。 794 年 平安京へ遷都。	
1200年	平安	1016年 藤原道長が摂政となる。 1192 年 源頼朝が征夷大將軍 となる。	平安時代後期(10～11世紀) 掘立柱建物など 平安時代後期～鎌倉時代初期 馬具(轡:くつわ)
1300年	鎌倉		
1500年	室町	1336 年 足利尊氏が征夷大將軍 となる。	室町時代後期(15・16世紀) こけら経
	安土桃山	1576 年 織田信長、安土城に移 る。 1582 年 本能寺の変。 1600 年 関ヶ原の戦い。	
1600年	江戸	1615 年 大坂夏の陣。 一国一城令。	

※ナナメ文字は、平成 20～23 年度の主な調査成果

②水辺の祭祀跡

古墳時代の川が埋没した部分を、奈良時代から平安時代の川が蛇行しつつ流れていました。川の規模は、幅約4m・深さ約2.2mで、幅15m以上ある古墳時代の川に比べ細くなっています。この川の底で、祭祀を示す遺構や遺物を3カ所で確認することができました。

水辺の祭祀1

川が大きく屈曲する部分の底に、人頭大の石材とともに須恵器の壺が置かれていたことがわかりました。須恵器の壺は口縁を打ち欠いており、内外面の一部は真っ黒になったスス状の付着物がついていることから、火にかけられたとみられます。具体的には不明ですが、日常容器を使えなくしていることや、煮炊き不使用の須恵器の壺を火にかけていることは、何らかの祭儀にともなうものである可能性があります。



須恵器壺

水辺の祭祀2・3

祭祀2の地点では、人形代(ひとかたしろ)2点・斎串(いぐし)1点・陽物形代(ようもつかたしろ)1点が出土しました。また、祭祀3の地点では人形代4点・斎串2点が出土しています。

人形代や斎串は、薄い板を加工して造られたものです。人形代は切り込みによって、頭や手、足を作りだしています。斎串は、下端を尖らせた串状の木製品です。陽物形代は、先端を削り両側に切り込みをいれたもので、男性の生殖器を表現しています。



祭祀2で出土した斎串・陽物形代

斎串は、上端を山形にし、両側を斜めに切り落としています。祭祀の場所を区画する結界や、神をまねく依代(よりしろ)として使用されたと考えられています。

陽物形代は、井戸から出土することが多く、きれいな水を願ったものと考えられています。

左：斎串
長さ17.5cm・幅1.7cm
厚さ約2mm

右：陽物形代
長さ11cm以上・幅3.3cm・厚さ3.1cm



- ①長さ 16 cm・幅 2 cm・厚さ約 2 mm
- ②長さ 14 cm・幅 1.3 cm・厚さ約 1 mm
- ③長さ 26.6 cm・幅 3.1 cm・厚さ約 4 mm
- ④長さ 27.1 cm以上・幅 3.5 cm・厚さ約 4 mm
- ⑤長さ 18.2 cm以上・幅 3.2 cm・厚さ約 2 mm
- ⑥長さ 10.1 cm以上・幅 1.6 cm・厚さ約 2 mm

赤外線写真

人形代

人形代は、祭祀2で2点、祭祀3で4点出土しています。祭祀2のものは、墨によって顔や胸が表現されています。祭祀3のものは、頭や足の表現に違いがあり、長さも様々です。墨による顔などの表現はありません。人形代は、病気が治ることを祈るときや、他人を呪うとき、自分の穢れや罪を祓うときなどに使用されました。川の中から出土していることから、人形代に息をふきかけたり、さすったりして病気や穢れを背負わせたのち、清浄な川に流し清めたと考えられます。

このような道具を使った祭祀は、当時の都や地方の役所などで行われている儀礼です。高島市内では、上御殿遺跡のほか、旧高島町の鴨遺跡(人形代・陽物形代・斎串)・永田遺跡(陽物形代・斎串)、新旭町の針江北遺跡(人形代)、今津町の日置前遺跡(斎串)で出土しています。これらの遺跡は公的な性格が多く、近くに所在する鴨遺跡や永田遺跡との関係は特に注目されます。この周辺には港(勝野津)や主要街道(北陸道)があり、北陸と畿内を結ぶ交通の要衝でした。居宅や倉庫群が見つかった上御殿遺跡は、鴨遺跡や永田遺跡と同様の祭祀が行われていることから、交通の要衝に所在する公的な性格の遺跡であると考えられます。奈良・平安時代において、高島郡におけるこの地域の重要性を示す遺跡のひとつといえます。

